

レポート・かながわに生きる私たち

2025年12月23日

学ぶことは生き延びること—映画「こんばんはⅡ」

Lib活・第4期生・鈴木光忠

夜間中学の誕生—相模原市立大野南中学校分校・夜間学級—

凡例

参照資料・文献・オンラインデータベース・ウェブサイトは本文中に(洋数字)で示す。
書誌・オンラインデータベース・ウェブサイト(ホームページ)は4・5頁に記す。

はじめに

1. 夜間中学は敗戦後の戦争孤児や生活困窮などの理由により、昼間に就労・家事手伝いなどを余儀なくされた学齢生徒に義務教育の機会を提供するために設置された(01/03/04/05)。
ピーク時は1955年(昭和30)の89校、5,028人であった(15)。
2. 敗戦後の夜間中学は法的な裏付けのない変則的な学校であり、本来的には望ましくないが、それでも必要とされる夜間中学の存在は「あつてはならないが、なくてはならないもの」と表現された(03)。
3. 現在は義務教育を修了しないまま学齢期を超過した人々、不登校など様々な事情により十分な教育を受けずに中学校を卒業した人々、本国や日本で義務教育を修了していない外国籍の人々など、様々な背景を持つ生徒の多様な学びを保証している(06/09/10/19)。
4. 夜間中学は各地域の教育委員会が運営主体を務める公立夜間中学校・夜間学級、民間の有志(ボランティア)が運営主体である自主夜間中学校・夜間学級の二種類ある(01/03/04/10)。
5. 2016年(平成28)12月、義務教育機会確保法が成立する(01/03/04/05)。その後、2025年(令和7)4月現在、41都道府県と指定都市に62校の公立夜間中学が設置されている(06)。2024年(令和6)5月に文部科学省が実施した調査結果では1,969名の生徒が夜間中学校に通学中である(06)。
6. 2022年(令和4)母校・相模原市立大野南中学校に分校として夜間中学校が新設された(07/15/16/22)。当レポートは義務教育機会確保法が成立した2016年(平成28)前後を基点に、相模原市立大野南中学校分校・夜間学級が開校に至る経緯と現状を記す。

第1章 神奈川県における夜間中学・夜間学級

1. 神奈川県における夜間学級の始まりは1948年(昭和23)2月に開設された横浜市立浦島丘中学校東浜分教場である(04/14)。
2. 2025年(平成7)12月現在、神奈川県内の公立夜間中学校は横浜市立蒔田中学校、川崎市立西中原中学校、相模原市立大野南中学校分校の3校(10)がある。
3. ボランティアの方が運営する自主夜間中学として、「つるみえんぴつの会」「あつぎえんぴつの会」「えびなえんぴつの会」「鎌倉えんぴつの会」「相模原えんぴつの会」の5校がある(10)。
4. 神奈川県には様々な事情で義務教育未修了者、外国籍の方、不登校児童・生徒も多く、多様な学びの機会の提供の一つとして、夜間中学を新設する必要性がある(09)。2016年(平成28)頃より文部科学省は神奈川県内に夜間中学校の新設計画を神奈川県・相模原市と協議を重ねてきた経緯がある(08)。

5. 2016年(平成28)4月、神奈川県教育委員会は県内の市町村教育委員会とともに中学校夜間学級等連絡協議会を設置した(03)。2016年(平成28)12月、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の確保等の法律が成立した(02)。その法律の趣旨は少なくとも各県に1校以上は夜間中学をつくることであり、夜間中学の入学条件を緩和することにあつた(01/02/03/04//05/15)。
6. 2017(平成29)年12月から2018年(平成30)1月にかけて神奈川県教育委員会は「夜間中学アンケート調査」を実施した(16/28)。同年(平成30)2月のアンケート調査の結果は全回答数160部、相模原市54部、県央63部であつた。その結果により県央地区の関心と必要性が高いと判断された(07/08/12/15)。
7. 中学校夜間学級の設置について、2020年(令和2)12月の神奈川県議会第三回定例会(12)と同年同月の神奈川県第3回文教常任委員会(13)において、それぞれ質疑応答がなされた。
8. 2021年(令和3)9月、神奈川県は相模原市立大野南中学校分校夜間学級に係る連携と協力に関する基本協定を締結した(11)。
9. 2021年(令和3)、神奈川県は夜間中学の広域的な仕組みに参加を決めた(07/08/11)。2022年(令和4)3月の神奈川県文教常任委員会(23)において「中学校夜間学級について」質疑応答がなされた。2022年(令和4)度入学予定者18名の居住地は相模原・藤沢・厚木・座間・平塚・伊勢原(16/20)。

第2章 相模原市における夜間中学校・夜間学級新設

1. 2016年(平成28)12月に義務教育機会確保法が成立した(01/03/04/05)。
2. 2017年(平成29)12月～2018年(平成30)1月に神奈川県教育委員会はアンケート調査を実施する(15)。2018年(平成30)2月、神奈川県教育委員会のアンケート調査の結果、相模原市が希望者最多の54名を数えた(15)。2018年(平成30)6月に相模原の夜間中学を考える会が発足する(15)。
3. 2019年(令和1)1月に相模原市は多言語による夜間中学アンケートを実施した(15)。調査結果はアンケート数100枚のうち47名の夜間中学に入学希望者がいること、外国につながる希望者が約8割いること、日本語取得、進学・就職のためなど日本社会に共生しようとする方がいること、日本人で義務教育未修了者や十分に学べていない人が1割5分ほどいること、等々の現状が判明する(15)。
4. 2019年(令和1)2月、相模原市に県内3校目の夜間中学校設置を検討する方針を相模原市が決定する(15/16/19)。2019年(令和1)3月は相模原市立夜間中学校新設のために、神奈川県が広域的な仕組みの検討を決定する(11/12)。
5. 2019年(令和1)4月～12月～2020年(令和2)1月にかけて、相模原市に夜間中学校を新設するための協議を文部科学省・相模原市・神奈川県の四者が毎月1,2回協議を重ねる(08)。協議の成果は広域的仕組み構築の課題を共有。県と相模原市の連携促進。民間団体、関係機関との連携を進める等々。
6. 2019年(令和1)4月以降相模原市教育委員会に夜間中学設立担当を設置。2020年(令和2)のコロナ禍中、同年(令和2)11月に相模原市議会が夜間中学校を2022年(令和4)4月に開校すると決定し、2021年(令和3)夏から生徒募集を開始と表明する(07/15)。神奈川県は神奈川県立総合産業学校を活用する形で、横浜市・川崎市を除く神奈川県全域から募集すると表明した(11/12/13/14/15/16)。
7. 2021年(令和3)2月に相模原市は夜間中学開設へ準備費を計上、本年夏に説明会を開き、生徒募集を開始すると表明(07)。2021年(令和3)5月相模原市教育委員会定例会において、夜間中学校新設に関して質疑応答(07)。2021年(令和3)9月、相模原市夜間中学校新設のために4者(相模原市・相模原市教育委員会・神奈川県・神奈川県教育委員会)が連携協定を結び、協力体制を構築する(11)。

8. 2022年(令和4)度の国勢調査で相模原市内に義務教育を修了していない市民が3,029人いる(21).
9. 2022年(令和4)2月相模原市立夜間中学校初年度は18人(内8名市外)が入学する予定(07/14/16).
10. 2022年(令和4)4月に相模原市立夜間中学校が新設開校した。10～60代の新入生18名入学、7割弱は外国籍(19/20/21)。初年度の生徒は1年13名、2年1名、3年4名である。相模原市立大野南中学校分校夜間学級をお互いが安心して学べる居場所として育てていく、と市民たちが支える(20/21/23).
11. 2022年(令和4)7月14日から、相模原市は夜間中学校について説明会を行い、夜間中学校の概要や学習内容を紹介した(20/21).
2023年(令和5)3月、相模原市立大野南中学校分校・夜間学級の第1回卒業生が誕生した(20).

第3章 相模原市における新設夜間中学校の現状と課題 (15/16/17/19/20/21/22/23)

1. 運営の柱

- 1) 先生方が討議を重ねながら、生徒の学びに応える授業を創造する。
- 2) 授業を学ぶ生徒の人格を尊重しながら、生徒を中心に行う。
- 3) 生徒が楽しそうに授業に参加し、先生と生徒が信頼し合いながら日常活動を行なう。

2. 学習内容

- 1) 国語・社会・数学・理科・外国語・音楽・美術・保健体育・技術家庭・道徳・学級活動
総合的な学習の時間・学校行事・校外学習。昼間の中学校と同じ教科を勉強する。
- 2) 1年間に約700時間の授業を行う。授業料免除。教科書は無償である。
- 3) 学習支援、日本語支援を行う。

3. 生徒と先生

- 1) 生徒は年齢や国籍、文化などが多様である。
- 2) 入学者は1年目18名、2年目12名、3年目8名、4年目8名である。
- 3) 中学校の各教科の先生が授業を行う。授業は月曜から金曜まで毎日行う。

4. 卒業生の進路

- 1) 中学校夜間学級の学習修了者は中学校の卒業資格を得る。
- 2) 多くの生徒は定時制高校に進学する。

5. 課題

- 1) 希望する生徒の居住地により、夜間中学が遠隔のため、通学できない場合がある。
- 2) 生徒の部活動や生徒会がないことである。

おわりに

1. 2022年(令和4)4月夜間中学級が相模原市に実現できた要因は夜間学級を必要とする学習希望者の思いの存在(01/03/04/05/15/16)。遡ること2016年(平成28)12月義務教育確保法の成立。このことが底流となり、相模原市夜間中学校の新設を支えた(01/02/03/04/08/09/15/16)。
2. 次に公立夜間中学校新設に民間の自主的夜間中学の関係者や夜間学級の教員・研究者の尽力がある。国会議員団(12)・文部科学省と神奈川県・相模原市・神奈川県教育委員会・相模原市教育委員会等、関係者たちが時間をかけて討議・質疑を続けた結果、建設的な提言が生まれ、新設に向け円滑な協働作業の進捗を可能にした(07/08/09/11/12なり/13/14/15/16/19/20)。

3. 山田洋次・森康行・塚本連平監督が製作した映画は評価も高く、全国各地で上映会が催され、多くの観客が感動をうけた。人々が夜間学校を知るキッカケとなり、世論に影響を与えた(25～31)。
4. 2020年(令和2)の国勢調査結果、未就学の人々が約9万4千人、最終の卒業学校が小学校の人々が約80万人4千人いると公表(06)。
5. 2023年(令和5)度の文部科学省調査によれば全国の小中学校の不登校児童生徒数が約34万6千人であると公表(06)。
6. 文部科学省は教育機会確保法や第4期教育振興基本計画に基づき全ての都道府県・政令指定都市に少なくとも一つの夜間中学校設置を促進している(09)。

参照資料・文献

- 01 大多和雅絵『戦後夜間中学校の歴史』六花出版 2017年6月
- 02 庄司匠「義務教育機会確保法成立前後の東京と神奈川における夜間中学運動」『基礎教育保障学研究 第2号』17頁～23頁
2018年8月
- 03 木村元『境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』東京大学出版会 2020年11月
- 04 江口怜『戦後日本の夜間中学』東京大学出版会 2022年2月
- 05 木村元『学校の戦後史 新版』岩波新書(新赤版 2056) 岩波書店 2025年3月
- 06 文部科学省編『2024年度文部科学白書』2025年8月
- 07 鈴木英之(相模原市教育委員会教育長)他「相模原市立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例について」
『相模原市教育委員会定例会』2021年5月14日
https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/023/751/05_teirei.pdf
(参照 2025年12月12日)
- 08 初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室「事業完了(廃止等)報告書 2019年度予算・夜間中学の設置推進・
充実事業 委託研究1(都道府県・市町村の役割分担に係る調査研究) 神奈川県 令和元年6月～令和2年3月」
『文部科学省 令和元年度予算「夜間中学の設置推進・充実事業」(調査研究)』令和元年度受託事業
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/index.htm (参照 2025年10月2日)
- 09 文部科学省「夜間中学の必要性和文部科学省における取組について」『文部科学省』2022年7月
https://www.mext.go.jp/content/20220726-mxt_syoto02-000024066_1.pdf (参照 2025年12月12日)
- 10 神奈川県教育委員会「中学校夜間学級」『神奈川県教育委員会』2025年5月1日
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/yakan-gakkyu/yakangakkyu.html> (参照 2025年10月2日)
- 11 神奈川県教育委員会教育局子ども支援課 記者発表資料・令和3年9月7日「相模原市立大野南中学校分校夜間学級に
係る連携と協力に関する基本協定」を締結しました 2021年9月7日、『神奈川県立公文書館』収蔵資料資料 ID320220552
- 12 亀井たかつぐ議員・桐谷次郎教育長「質疑応答・中学校夜間学級の設置について」
『神奈川県議会 第3回定例会会議録 12号』 2020年12月1日
https://ssp.kaigiroku.net/tenant/prefkanagawa/SpMinuteView.html?power_user=false&tenant_id=369&council_id=33&schedule_id=12&view_years=2020 (参照 2025年12月12日)

- 13 渡辺ひとし委員・子ども教育支援課長「質疑応答・中学校夜間学級の設置について」『神奈川県文教常任委員会記録』
2020年12月10日-01号
https://ssp.kaigiroku.net/tenant/prefkanagawa/SpMinuteView.html?council_id=326&schedule_id=15&minute_id=2&is_search=true (参照2025年12月12日)
- 14 藤井深介委員・子ども教育支援課長「質疑応答・中学校夜間学級について」『神奈川県文教常任委員会記録』
2022年3月8日-01号
https://ssp.kaigiroku.net/tenant/prefkanagawa/SpMinuteView.html?power_user=false&tenant_id=369&council_id=370&schedule_id=7&view_years=2022 (参照2025年12月12日)
- 15 吉田恵一「夜間中学の設立に向けた私たちの取り組み」『アゴラ』090号2019年10月
- 16 アゴラ編集部編他著「特集 応援しよう！22年4月夜間中学が開設」『アゴラ』097号2021年7月
- 17 「このまちにようこそ！夜間中学」『ここぞたうんNo.20』NPO法人ここぞっと2021年10月
- 18 相模原市教育委員会学校教育課「中学校夜間学級設置廃止」2022年3月8日（未見・要情報公開請求資料）
- 19 相模原市教育委員会学校教育課「夜間学級とは」2025年6月6日「大野南中学校 夜間学級について」2025年6月25日
『相模原市立大野南中学校分校 夜間学級』
<https://ohnominami-yakan-j.sagamihara.andteacher.jp> (参照2025年10月2日)
- 20 吉田恵一「入学生、保護者が待ち望んだ夜間中学 開校式・入学式」『アゴラ』101号2022年7月
- 21 吉田恵一「相模原市立夜間中学開校一年の成果と課題」『アゴラ』106号2023年10月
- 22 相模原市教育委員会学校教育課「相模原市立大野南中学校分校夜間学級」『相模原市立大野南中学校分校 夜間学級』
2025年9月8日
<https://ohnominami-yakan-j.sagamihara.andteacher.jp> (参照2025年10月2日)
- 23 吉田恵一「大野南中学校分校・夜間学級 3年間の実践から見える課題」『アゴラ』113号2025年7月

付・映像作品

- 25 山田洋次監督作品 『学校』1993年
- 26 同上 『学校Ⅱ』1996年
- 27 同上 『学校Ⅲ』1998年
- 28 同上 『十五才 学校Ⅳ』2000年
- 29 森康行監督作品 『こんばんは』2004年
- 30 同上 『こんばんはⅡ』2018年
- 31 塚本連平監督作品 『35年目のラブレター』2025年

謝辞

レポート作成にあたり、以下の方々から、ご教示をいただき、御礼と感謝を申し上げます

相模原市立相模大野図書館 相模原市立大野南公民館
神奈川県立図書館 神奈川県立図書館地域情報課